

高度技能に基づいた伝統工芸サブブランドに関する試験・研究報告(第6報)

－ 熟練度別ななこ塗動作分析 －

Study on sub-brand development based on the traditional craftsmanship (6 report)

－ Analysis of Nanako-nuri Movements Based on Skill Level －

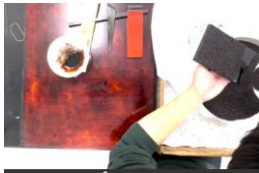
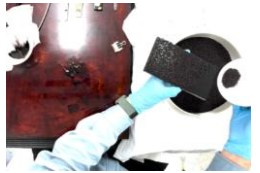
鳴海 藍、小松 勇、濱田 圭

第6報では、サブブランド構築の一環として、伝統的工芸品産業指定を受けた津軽塗4技法のうち「ななこ塗」に着目し、熟練度の異なる3名(高度技能者、中堅職人、初心者)を対象に、作業動作分析を実施した。実施方法は第2報で述べた通り(共通の工程及び素材)で、初心者にのみ作業前に作業動画及び完成イメージを提示した。

本報では、菜種を蒔く前に塗る工程「種漆塗」と菜種を蒔く工程「種蒔き」の作業動作と仕掛け手板について報告する。「種漆塗」は、水分量8%～9%程度に調整した精製漆「種漆」を漆刷毛で薄く塗る工程で、「種蒔き」は「種漆塗」の後に菜種を蒔く工程である。それぞれの工程について、被験者の動作を比較した。「種漆塗」では、高度技能者は刷毛通し回数が最も多く、初心者は刷毛通し回数・漆量ともに最も少なかった。「種蒔き」では、中堅職人・初心者が試験片を持ち替えながら半分ずつ蒔いていたのに対し、高度技能者は試験片に一気に蒔いていた。

以下の表には、2つの工程について被験者それぞれの刷毛通し回数・漆の量・種蒔き方法と、作成したななこ塗仕掛け試験片の写真を示した。初心者が作成した試験片は、粒の大きさがまちまちでφ1mm弱の輪紋となっていた。一方で、高度技能者・中堅職人が作成した試験片は粒がそろっており、φ2mm弱の輪紋となっていた。このことから、刷毛塗する漆の量が輪紋の大きさに影響することが示唆された。

表 熟練度の異なるななこ塗動作(種漆塗と種蒔き)の作業結果

	高度技能者(40年以上～)	中堅職人(10年程度)	初心者
刷毛通し回数	最も多い	最も少ない	少ない
漆の量	多くはない	多い	少ない
種蒔き方法			
	一気に蒔く	半分ずつ持ち替えて蒔く	半分ずつ持ち替えて蒔く
種剥ぎ			
	輪紋がそろっている	輪紋がそろっていて大きい	輪紋がまちまちで小さい